

全小・社研

・発行所
・全国小学校社会科研究協議会
・東京都府中市若松町4-26
・発行人 草刈 あずさ
・発行人 西谷 秀幸

徳島大会・京都大会への期待

全国小学校社会科研究協議会会長
東京都府中市立府中第十小学校校長

草刈 あずさ



新学習指導要領の改訂に向けて、現在の社会や教育の課題を見据えた社会科の在り方の議論が行われています。それらの動向が着目される中、現行の学習指導要領に基づいた着実な研究成果発表として、令和八年度は、二つの全国大会を開催いたします。

第六十四回全国小学校社会科研究協議会研究大会徳島大会は、令和八年十一月十九日(木)徳島市のあわぎんホールにて全体会と記念講演、二十日(金)には徳島市助任小学校と徳島市沖

の姿が全国に発表されることを期待しています。

また、令和八年度全国小学校社会科研究協議会研究大会を、令和九年二月四日(木)京都市総合教育センターにて全体会と記念講演、五日(金)には京都市立待鳳小学校と京都市立唐橋小学校、京都市立春日野小学校の三会場において、公開授業や全体会、学年別授業研究会や課題研究会が行われます。大会主題「子どもが調べ考える社会科学習」「今」を見て「先」を見通し自他に問い続けていく子どもへの育成を目指して」の基、①質の高い学習問題②明確な見通し③充実した調べる活動という主体的な学びの充実を図る手立てを講じることを通して、目指す子どもの姿の実現を図っています。京都市の社会科が好きで先生方が社会科好きの子どもたちを育成するため、工夫した授業を展開することを期待しています。

そして、二つの全国大会を通して、全国の社会科の研究や授業が一層充実されますよう、願っております。

これから生きる子供たちを育てる社会科教育

全国小学校社会科研究協議会副会長
東京都練馬区立大泉東小学校校長

小須田 哲史



を育てる学習の充実」の基、次期学習指導要領につながる価値ある実践的な研究が提案されています。

今、世界に目を向けると、サッカーワールドカップのようなスポーツの華やかな祭典等の人々が湧き上がるような場がある一方で、国と国が対立し、これまでの世界秩序が一層不安定となり、人間の命が危ぶまれる国や地域もあります。

そのような厳しい社会の中で、これからの地域、日本、世界を担い、生きていく広い視野をもつ子供たちを育成する社会科が真に必要とされています。

令和八年度を迎え、都小社研は、新たに草刈あずさ会長の下、研究活動をスタートさせました。新会長の下で、研究成果を都内の学校に広げていきます。

今年度、開催される「徳島大会」「京都大会」において、全国の先生方と共に交流し、多くの学びが得られることを楽しみにしています。

生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続的な社会の創り手を育むために、学習指導要領改訂に当たり中央教育審議会の論点整理で示された「論点整理」では、①「主体的・対話的で深い学び」の実装②多様性の包摂③実現可能性の確保の三つの方向性が示されています。

多様な子供たちの「深い学び」を確かなものにしていくことが今、社会科教育に携わる私たちに求められています。

第六十四回全国小学校社会科研究協議会徳島大会

大会主題 「未来に向けて考え続け、

よりよい社会を拓く子どもの育成」

— 社会に対する認識と判断する力を育む社会科学習 —

徳島大会実行委員長
徳島県徳島市応神小学校校長

永井 武



一 はじめに

豊かな自然と伝統文化を併せ持ち、阿波踊りの熱気が息づく徳島県にて、第六十四回全国小学校社会科研究協議会研究大会を開催いたします。本県においては、平成二十二年度以来十六年ぶりの全国大会となります。その間、本県では「子どもの主体的な問題解決的学習の過程に、判断する場面を意図的・計画的に設けた社会科学習についての研究」や『問い直し』（分かった、もしくは分かったつもりになっていることに対して、ゆさぶりの問いを投げかける）に焦点を当てて認識を深める研究を進めてきました。そして、めざす子ども像を「社会の

向性も見据えながら、私ども徳島県社会科の研究を全国に発信したいと考えています。現在も授業公開会場校では、よりよい授業づくりに向けた実践研究を進めてきております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

二 大会の概要
大会主題
未来に向けて考え続け、よりよい社会を切り拓く子どもの育成

— 社会に対する認識と判断する力を育む社会科学習 —
研究内容

①単元構想と振り返り

○単元構想の方策

- ・ 日常のアプローチ
- ・ 学習問題づくり
- ・ 個の追究と全体での共有

○振り返りの方策

- ・ 振り返りの観点
- ・ 考えの見取りと活用

②判断する場面の設定

○柔軟な場面設定

- ・ 社会への関わり方を考える
- ・ 選択・判断【A】
- ・ 深く分かることにつながる判断【B】

・ 見通しにつながる判断【C】

○判断への意欲を高める工夫

③考えを深める手だて

○発問・言葉かけ

○資料提示

○板書・ツール

三 日時・会場・内容

第一日

令和八年十一月十九日(木)

十三時～十六時四十五分

会場 あわぎんホール

徳島県徳島市藍場町

二丁目十四

(開会行事・全体会・大会主題提案・指導講評・記念講演・閉会行事)

第二日

令和八年十一月二十日(金)

九時三十分～十六時十分

第一会場 徳島市助任小学校

会場校テーマ

「人とつながり、社会とつながり、よりよい未来を切り拓く子どもの育成―子どもの意識がつながり、考えを深め合う単元構想と授業展開―」

第二会場 徳島市沖洲小学校

会場校テーマ

「自ら考え、伝え合い、未来に向かって問い続ける子どもの育成―社会的事象の見方・考え方をものとして問題発見から問題解決に向かう授業づくり―」

(公開授業・全体会・指導講評・学年別授業研究会・学年別課題研究会)

四 講師

第一日 全体会指導講評

文部科学省初等中等教育局

教育課程課教科調査官

小倉 勝登 先生

記念講演

「伝統芸能が大切なのはなぜか?―阿波人形浄瑠璃における取組から―」

徳島県立阿波十郎兵衛屋敷

館長 佐藤 憲治 様

第二日 学校会場指導講評

第一会場

大妻女子大学教授

澤井 陽介 先生

第二会場

帝京大学教授

鎌田 和宏 先生

五 参加申し込み

専用のウェブサイトからのお申し込みをお願いいたします。

<https://amarys-jtb.jp/syakaika64/>

徳島大会

第一日目

十一月十九日(木)

会場 あわぎんホール

午後一時より

○開会行事

○全体会

○大会主題提案

○指導講評

○記念講演

第二日目

十一月二十日(金)

市内二会場にて実施

第一会場

徳島市助任小学校

校長 平山 康史

■学校の概要・地域の特色

本校は、明治4年に藩知事・蜂須賀茂韻候の命により「北小學校」として創設された、150年以上の歴史を誇る学校です。学校周辺の渭北地区は、かつて武家屋敷が建ち並び、藩主の墓所である興源寺をはじめ、多くの寺社が残る歴史深い地域です。

また、吉野川下流のデルタ地帯に位置し、四方を川に囲まれたこの地は、現在、市平均の約6倍の人口密度を誇る都市部へと発展しています。周辺には保

育所から大学まで全校種がそろい昔から文教地区と呼ばれ、戦前は女子師範学校附属小の役割も担いました。

近年は外国籍の児童も増加し、歴史的背景と都市化、多文化共生が交差する独自の教育環境を有しています。本校では、社会科研究を柱として積み重ねてきた成果を、他教科の授業にも生かし、授業改善を推進するとともに、学び続ける姿勢を大切にし、人間性豊かな児童の育成に努めています。

■研究の概要

徳島県大会主題「未来に向けて考え続け、よりよい社会を切り拓く子どもの育成」を受けて、本校では「人とつながり、社会とつながり、よりよい未来を切り拓く子どもの育成」を研究主題に掲げ、社会科研究に取り組んでいます。他者と協働してよりよい未来を創造できる資質・能力を育むことを目的として、次の3つの「つながり」を重視しています。

(1) 人とつながる：友達、地域住民、教材の中の人物等の思いを知り、考えを伝え合い共に解決をめざします。

(2) 社会とつながる：人を窓口として、社会に対して「関心をもつ」「分かる」「判断する」「働きかける」などとして、よりよい社会を考え続ける姿を

めざします。

(3) 意識がつながる：単元導入から終末、さらには生活へと問題意識を継続させ、主体的な学びを促します。

具体的な研究内容は、地域教材の開発や見通しをもたせる「単元構想と振り返り」、根拠をもとに話し合う「判断する場面の設定」、思考をゆさぶる発問や資料の提示、構造的な板書やICT等の「授業中の手だて」の3本柱で構成されています。

現在、学び合うことの良さを実感しながら、協働して問題解決に取り組む資質・能力を育てることができ単元構想・授業展開について研究を進め、対話を通して多様な視点や立場から「考えを深め合う」授業づくりに取り組み、社会的事象を「自分事」として捉え、協力して課題を解決できる子どもの育成を目指しています。

第二会場

徳島市沖洲小学校

校長 米田 直紀

■学校の概要・地域の特色

本校は、明治八年(一八七五年)に創立され、令和七年度に、創立百五十周年を迎えました。

平成二十八年一月には、「エコと防災」に優れた最新の施設・設備などを備えた五階建ての新校舎、三階建ての新体育館が完成しました。

地域の農産物では「渭東ねぎ」がブランド化されています。校区内にある徳島市中央卸売市場は、市内の農産物や海産物の流通拠点です。校区の東側には工業団地「マリンプピア沖洲」があり、様々な工場や企業、フェリー乗り場等があり、県内の工業や交通の要所です。徳島南部自動車道が開通し、近畿圏へのアクセスが格段に向上しました。豊かな教育資源と、温かい地域の人々に包まれて、児童・教職員は、「学びいっぱい、笑顔いっぱい、元氣いっぱい、夢いっぱい」の学校づくりをめざして、日々取り組んでいます。

■研究の概要

県社会部会の研究主題を受け、本校独自の実践テーマ「自ら考え、伝え合い、未来に向かって問い続ける子どもの育成―社会的事象の見方・考え方をめざして問題発見から問題解決に向かう授業づくり―」を掲げています。社会的事象の見方・考え方を働かせながら、社会の意味やつながりが深く分かり、根拠や理由をもって判断する力を身に付けることを目指し

ています。「問い続ける」ことを軸に、社会を見つめ、見いだした問題を解決まで進めていく一連の学びを何度も体験することが、研究主題実現に資すると考え、以下の三点を柱に授業づくりに取り組んでいます。

(1) 単元構想と振り返り

一時間の終末の振り返りの中で、子どもが自覚した問いを生かして次時を展開することにより、満足感や達成感を経験し、意欲的に問題を発見・解決したり、問い続けたりする子どもが育つと考えています。

(2) 認識と判断

「決める」「選ぶ」判断する場面を図的・計画的に設定することにより、社会的事象の見方・考え方を働かせながら、根拠や理由をもとに自分の考えをもったり決めたりするなかで、自己や他者との対話が生まれ、その過程を通して、自分の考えを表現する力、社会に対する認識と判断する力が育つと考えています。

(3) 考えを深める手だて

発問、資料提示、板書、視点や立場の明確化等の手だてを意図的・計画的に講じることにより、自ら考えを深め、他者とも深め合う力や、多角的・汎用的に考える力が育つと考えています。

全小社研事務局だより

全国小学校社会科研究協議会事務局
東京都杉並区立荻窪小学校

手塚成隆



令和八年六月五日(金)日本出版クラブで、第百二十回理事会が開催されました。

草刈あずさ新会長の挨拶の後、議事に入り、令和七年度の事業・決算が承認されました。その後、新会長より令和八年度の役員が紹介され、同年度の事業計画・予算が承認されました。引き続き、第六十四回徳島大会、令和八年度京都大会の案内の後、第六十五回広島大会、令和九年度茨城大会の案内がありました。

令和八年度 全国小学校社会科研究協議会役員名簿

会長	草刈あずさ(東京・府中市立府中第十小学校)
副会長	小須田哲史(東京・練馬区立大泉東小学校)
	石川 篤司(北海道・札幌市立二沢小学校)
	中嶋 裕明(青森・青森市立金沢小学校)
	場家 誠(神奈川・横浜国立金沢小学校)
	河本 隆明(石川・金沢市立南小立野小学校)
	岡本 七紀(名古屋・名古屋市立大磯小学校)
	左海 克彦(大阪・大阪市立聖和小学校)
	飯塚 積(島根・雲南市立鍋山小学校)
	永井 武(徳島・徳島市立神小小学校)
	岩崎 稔敦(佐賀・佐賀市立中一貫校愚斎館小学校)
会計監査	伊藤 智樹(神奈川・横浜市立港北小学校)
常任理事	風見由起夫(東京・練馬区北町西小学校)
	大須賀慎一(東京・江戸川区立松江小学校)
	島田 学(東京・八王子市立陶鎔小学校)
事務局次長	各地域団体組織代表者
事務局次長	手塚 成隆(東京・杉並区立荻窪小学校)
	吉川 正(東京・新島村立式根島小学校)
	鈴木 優介(東京・西東京市立田無小学校)
	小林 資郷(東京・西東京市立谷戸第二小学校)
	須藤 敏之(東京・千代田区立千代田小学校)
	加藤 寛(東京・あきる野市立前田小学校)
	村松 良臣(東京・北区立赤羽台西小学校)
調査研究部長	西谷 秀幸(東京・板橋区立板橋第五小学校)
会報部長	

研究論文の募集

第百十九回の理事会で、山口、埼玉、北海道、島根の4団体の開催時期が報告されており、令和二十五年度までの大会については、徳島大会の理事会までに希望を伺うこととなりました。現在、岐阜県より開催希望を受けています。理事会終了後は、文部科学省教科調査官小倉勝登先生による教育講演会が開催され、新学習指導要領を踏まえた社会科教育の動向についてご指導いただきました。

全小社研では、毎年、研究論文を募集して、その成果を冊子にまとめ全国に紹介しております。今年度も文部科学省教科調査官小倉勝登先生を中心に論文審査をお願いし、優れた論文を研究収録第六十二集として三月に刊行する予定です。

- 一 研究主題
「学習指導要領の具現化を目指す社会科指導の工夫」
- 二 研究実践例
(一)「思考力」「判断力」「表現力」の育成を目指した研究実践
(二)児童に身近な教材を取り上げ、「主体的・対話的で深い学び」を目指した研究実践
(三)一人一人の児童に生きる力としての問題解決能力の育成を目指した研究実践
(四)児童が社会的事象の見方・考え方を働かせ、課題を追究していく研究実践
(五)社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力の育成を目指した研究実践

- (六) 体験的な活動を適切に組み入れ、考えに広まりや深まりをもたせた研究実践
(七) 学んだことを実社会・実生活等に活用し、社会参画を視野に入れた研究実践

三 応募要領

- (一) 論文枚数
縦置き 横書き 六枚
締切
令和九年一月十三日(水)
必着(当日消印有効)
- (二) 応募資格
正会員である団体の長(都道府県小社研究会会長等)の推薦、または準会員(個人会員)の推薦方法
- (三) 官製はがき又はメールに次の事項を記入の上、令和七年十二月一日(月)までに事務局担当者にお申込み(応募登録)ください。

- a 副主題 b 実践学年
c 実践単元 d 実践者職・氏名
e 勤務校
f 勤務校所在地、郵便番号
g 勤務校電話番号・FAX番号
(五) 「団体の長の推薦」または「個人会員」の資格の明記
発表
審査結果は、二月末までに本人宛に連絡し、入選、佳作は、研究論文収録に掲載します。
問い合わせ先・応募先
〒一八八〇〇〇一
東京都西東京市
谷戸町一七二七
西東京市立
谷戸第二小学校長
小林 資郷

会員募集

全小社研では、小学校社会科教育の発展のため、全国各地の研究団体(正会員)と個人会員(準会員)が連携して研究活動が続け、その成果を積み上げてきました。今年度も個人会員への加入にご協力ください。

- 一 個人会員の性格・特典
個人会員は、準会員として会費を負担することにより、研究論文への応募資格を得るとともに、全小社研の研究成果の刊行物(研究集録・資料等)の送付を受けることができます。
- 二 会費の納入方法
最寄りの郵便局より、郵便振替にて会費をご送金ください。入金を確認でき次第、会員証を送付いたします。
- 三 郵便振替口座番号
〇〇一〇〇一六二八二五五七
全国小学校社会科研究協議会
問い合わせ先
〒一八八〇〇〇一
東京都西東京市
田無町四一五二二
西東京市立
田無小学校長
鈴木 優介